校 訓「時を守り　場を清め　礼を正す」

ささりんどう

鴻巣市立箕田小学校　学校だより　令和 4年2月1日

学校教育目標

感動し 共に喜びあえる児童の育成

児童数
男子　158名
女子　153名
合計　311名

校章の笹竜胆（ささりんどう）は、箕田源氏の旗印です

「ここに置いていくものを残すな」
～ 箱根駅伝から ～

校長　齋地　　満

「鬼は外、福は内！」の掛け声とともに豆まきをする**節分**。もともとは、立春、立夏、立秋、立冬の前日にあり、季**節**の**分**け目の日を指していました。旧暦では春から１年が始まるとされていたので、春の節分が大切とされ、年が変わるときに邪気が入りやすいとも考えられていました。そこで、１年間の平穏無事と邪気をはらう意味を込め、豆まきが節分の行事となったそうです。ちなみに、豆まきの後にいくつ豆を食べていますか。「年取り豆」と呼ばれ、自分の年齢だけ、もしくは年齢の数＋１個だけ食べるのがならわしとのことです。（地域によって違いがあります。）
まだまだ、寒い日々が続く時期ですが、暖かい日差しに春の訪れを感じ始めるころでもあります。健康に留意して、３学期を乗り切りましょう。

さて、今年の箱根駅伝は青山学院大学が新記録で歓喜のゴールを迎えました。そこから、遅れること２０分、駿河台大学の選手が１９位ながら喜びの表情とガッツポーズでゴールした姿が印象的でした。駿河台大学は、予選会を８位で突破して（１０位までの出場枠）、悲願であった箱根駅伝出場を果たし、「最後まで襷（たすき）を繋ぐ」ことを目標に初の舞台に臨みました。なかでも往路二区を走った今井選手は、埼玉県の中学校教員であり保健体育を教えていました。親交のあった徳本監督からの助言もあり、自己啓発等休業制度を利用して大学に編入し、心理学を学ぶとともに、自身の夢であった箱根駅伝に挑戦することを決意したのです。今井選手は、先頭に立って練習を引っ張り、仲間へ積極的に声をかけるなど大黒柱としてチームを支えました。そして迎えた箱根駅伝当日、往路二区を走るのですが、後半にスタミナが尽きてスピードが落ちていきます。すると、監督から「ラスト３キロだからね。思い残すことはここに全部おいていけ。ここからは気持ち。あきらめないことが“とりえ”なんだからいくぞ。」と激励されます。今井選手も「シャッ」と声を上げ、最後の力を振り絞ります。そして、中学校での教え子であり、現在のチームメイトである永井選手へ襷を繋げます。その後も全員が襷を繋ぎ、喜びのゴールとなるのでした。徳本監督の言葉は、４月から教職へ戻る今井選手に向けて「思い残すことや悔いが残らないように、今この瞬間にできることをやり切ろう。そして、新しいステージでは気持ちを新たにがんばってほしい。」という気持ちが込められていると感じました。今井選手も監督から『ここに置いていくものを残すな。』と言われたと語っています。実は、徳本監督自身が、大学４年生の時にキャプテンとして臨んだ箱根駅伝で、無念のリタイヤとなり、襷を繋げなかった経験があったのです。

新記録で優勝した青山学院大学も襷を繋ぎ切ってゴールした駿河台大学も共に喜びに満ちていました。それは、「目標を達成した」「やり切った」という思いがあるからです。子ども達も同じです。今年度の学習や生活について目標を振り返り、今できることをしっかりと行い、やり切ることによって、達成感を味わわせ、新しい学年やステージにつなげていきたいと思います。今月から２年生のかけ算九九検定を校長室で行います。充実した笑顔に会えるのがとても楽しみです。

みんながんばりました！2年ぶりの持久走大会

3年生（1/27　1校時）

2年生（1/27　2校時）

4年生（1/28　1校時）

1年生（1/28　2校時）

5年生（1/28　3校時）

6年生（1/28　4校時）

延期になっていた持久走大会を、１月２７日（木）、２８日（金）に行いました。

コロナ禍の中の開催ですので、①学年ごとの分散開催、②児童・教職員・PTA 役員のみでの実施、③競技前後のマスク着用の徹底、④ゴール後の整列間隔の確保、⑤校内コースの設定等、感染症拡大防止対策を徹底して行いました。

子どもたちが見せてくれた、仲間と競い、自分に負けずに本気でがんばる姿や、ゴール後に本気で喜び本気でくやしがる表情に心を打たれ、教職員一同、実施できてよかったと実感しております。

保護者の皆様にご覧いただけなかったことは残念でしたが、終わった後はどの子も充実感にあふれた表情をしていました。保護者の皆様のご理解・ご協力、本当にありがとうございました。また、PTA 役員の方々、お忙しい中、大会の安全な実施にご協力くださりありがとうございました。